

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：37117

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02578

研究課題名（和文）初等中等教育における管理職とジェンダーに関する研究 教頭の職位に着目して

研究課題名（英文）A Study on Administrators and Gender in Primary and Secondary Education:
Focusing on the Position of Vice Principal

研究代表者

飯島 絵理 (IIJIMA, Eri)

筑紫女学園大学・現代社会学部・准教授

研究者番号：70415355

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、初等中等教育に携わる教員や教育委員会職員等へのインタビュー調査等を通して、学校教育における女性の管理職登用を阻害／促進するキャリア形成上の要因や、学校組織のあり方に関わる課題、様々なアンコンシャス・バイアスの影響、およびそれら相互の関連性等を明らかにした。特に、教員の評価・声がけのキーパーソンである学校長や、女性教員自身等の様々なバイアスが、教育現場の不文律や慣習に大きく関わっていることを示す具体的な課題が明らかになり、組織ぐるみの学習の重要性が示唆された。調査研究で得られた知見は冊子等としてまとめ、全国の教職員を対象とした研修の企画・実施に活用した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、日本社会におけるジェンダー平等の実現のための基盤となり得る初等中等教育分野において、女性が意思決定過程に十分に参画していないことを問題の所在とし、その要因を教員個人および教育委員会等の組織へのインタビュー調査によって明らかにするとともに、組織としていかに登用促進に向けた実践をなし得るのかを検討した。意思決定過程への参画の性別による不均衡は、学校教育における根本的な課題であるが、多くの課題が山積する学校現場での議論や取組は十分ではない。リーダーの多様性は優秀な教員人材の確保や多様化する子供の現状への対応等にも有用なはずであり、この点においても、本研究の社会的意義は大きいといえる。

研究成果の概要（英文）：Through interview surveys, this study clarified the career development factors that hinder/promote the promotion of women to managerial positions in primary and secondary education, issues related to the school organizations, the impact of various unconscious biases, and the interrelationships between these factors. In particular, it became clear that various biases held by school principals, who are key persons in evaluating and encouraging teachers, and female teachers themselves, are deeply related to the unwritten rules and customs in the educational field, and this suggests the importance of organizational learning. The findings from the research were compiled into booklets and used to conduct training for school teachers.

研究分野：教育社会学

キーワード：ジェンダー 学校教育 女性管理職 女性のキャリア形成 教員 アンコンシャス・バイアス 女性校長 男女共同参画

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

「男女共同参画社会に関する世論調査(平成 28 年度)」によると「各分野の男女の地位の平等感」は「学校教育の場」が最も高く、回答者の 6 割以上が「平等」と答えている。しかし、科学関連分野を進路選択する女子学生が男子学生に比べて極端に少ないことや、固定的な性別役割分担意識に基づく「隠れたカリキュラム」が指摘されているように、学校現場は男女平等であるとは言い難く、意思決定過程への参画の男女格差の是正は、学校教育における根本的な課題といえる。また、経済産業分野では、女性管理職の登用促進を持続可能な経営戦略として捉える見方が徐々に広まってきているが、学校現場ではまだそのような議論はなされていない。教員の女性管理職登用は、優秀な教員人材の確保や多様化する子供の現状への対応等にも有用なはずであり、登用を促進するための基礎的研究が必要であると考えた。先行研究では、女性校長へのインタビュー調査をもとにした研究は多く散見されるが、これらは、校長個人のライフコース分析や管理職登用を阻む制度・慣習等の要因を描くことや、現行システムへの批判に留まっている。

本研究に先行して研究代表者らが実施した量的調査からは、校長の仕事に対する満足度は高く、勤務時間も比較的短いことが明らかになっており、女性の管理職志向を高めるという点においては、管理職になるにあたっての入口の職位であり、校長よりも阻害要因としての課題が多いと考えられる教頭の職位に焦点をあてることとした。

2. 研究の目的

初等中等教育における女性教員は、教員全体に占める割合に比して管理職に占める割合が極めて低く、学校経営や地域づくりにかかわる意思決定過程に、女性が十分には参画できていない現状にある。本研究は、この問題に対して、教員のキャリア形成のプロセスを辿り、教員の管理職志向を促進／阻害する環境要因や転機、意識、態度・姿勢等について、ジェンダーの視点から検討する。あわせて、女性の管理職登用が促進され得る学校運営や人材育成等、教育組織のあり方について考究することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究に先立ち 2017 年度に実施した小中学校の本務教員を対象とした大規模アンケート調査の結果を踏まえた上で、本研究では、個人のキャリア形成のプロセス等を質的調査によって補充し、深掘りした。調査対象を①管理職および管理職候補の教諭等、個人を焦点とするもの、②学校や教育委員会等、組織を焦点とするものの 2 つに大別し、インタビュー調査を実施した。各々の調査の内容・目的は以下のとおりである。

①個人を焦点とするインタビュー調査

個人のライフストーリーを聞き取り、キャリア形成のプロセスにおける様々な経験や転機において、どのような資源を活かし、何を学びとりながら教員としての職業を継続したか、管理職を志向する意識をどのように培ったか、その促進／阻害する環境要因は何か、また、現在の職位における業務やワーク・ライフ・バランスのあり方等について探った。

②組織を焦点とするインタビュー調査

先駆的な運営を行う学校や教育委員会を中心とした組織へのインタビュー調査を行い、現行システムの課題や、現在取り組んでいる労働時間削減や業務効率化、教員育成指標の作成等をジェンダー平等に向けた課題にどのように関連づけられるのか等、女性管理職登用促進が実現可能性となる道筋を探った。

4. 研究成果

(1) 研究計画2年目から移動制限・自粛が生じたコロナウイルス感染症の拡大により、計画を見直しつつ進めた本研究であったが、インタビュー調査や研修を通じた情報収集等を通して、初等中等教育における女性の管理職登用を阻害／促進するキャリア形成上の要因や、学校組織のあり方に関わる課題、様々なアンコンシャス・バイアスの影響等を明らかにすることができた。

(2) 管理職に占める女性の割合が低い要因には、学校組織の制度・しくみ、規範や慣習、また教員個々の人や社会とのつながり等の関係性、個人の持つ意識や信条、感情といったものがあり、それらが相互に関連し合っている。また、地域ごとの教育委員会やコミュニティ、労働市場、慣習等の特性や、生活様式や価値観の多様化等の時代的な変化による要素もある。本研究では、これらの要因を具体的に浮き彫りにした。特に、教員の評価・声がけのキーパーソンである学校長や、女性教員自身等の様々なバイアスが、教育現場の不文律や慣習に大きく関わっていることが明らかになり、組織ぐるみの学習の重要性が示唆された。

(3) 調査研究で得られた知見は、全国の教職員を対象とした研修の企画・実施に反映した。また、小冊子としてまとめ、研修教材として活用するとともに、全国の教育委員会等への配付や研究代表者の所属機関のホームページでの公開を行った。研修の企画・実施においては、各現場での女性の管理職登用促進に向けて、研究成果を効果的に伝える方法等について検討、試行した。

(4) 以上のような研究や研修企画・実施によって着実な成果が見られた一方、今後の課題としては、①多角的・複合的な要因およびそれらを維持する学校組織マネジメントのあり方等をより詳細かつ包括的に検討すること、②これらの検討を学校組織の変革につなげていく学びのプロセスをより丁寧に分析することの2点を挙げておきたい。これらの課題については、引き続き研究と学習実践・検証を進める。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 飯島 絵理	4. 巻 8月号
2. 論文標題 ジェンダー平等の実現に向けた高校教育の課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 飯島 絵理	4. 巻 第13号
2. 論文標題 学校組織マネジメントとジェンダー平等： 持続可能な地域社会の好循環に向けた検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 NWEAC実践研究	6. 最初と最後の頁 140-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 飯島 絵理	4. 巻 第69巻 第4号
2. 論文標題 学校教員の男女格差とジェンダー観 公立小中学校教員を対象とした調査の結果をもとに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本工学教育協会編 『工学教育』	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4307/jsee.69.4_14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 飯島 絵理	4. 巻 日本の社会教育第65集
2. 論文標題 「学校における働き方改革」とジェンダーをめぐる課題 佐賀県多久市教育長のキャリア形成プロセスと改革実践の事例をもとに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋館出版社 日本社会教育学会編 『ワークライフバランス時代の社会教育』	6. 最初と最後の頁 150-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯島 絵理	4. 巻 11
2. 論文標題 学校における女性教員の過少代表をめぐる課題――学校組織と教員のアンラーニングの観点に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NWEC実践研究	6. 最初と最後の頁 69-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 飯島 絵理	4. 巻 令和3年6月号
2. 論文標題 多様な教職員が活躍できる 職場づくりとその意義 男女共同参画の視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育時報, 岡山県教育委員会・岡山県教育広報協会編	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯島 絵理	4. 巻 10
2. 論文標題 女性校長はなぜ少ないのか、少ないことはなぜ問題か 学校教員の男女格差の現状と子供のまなざし	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NWEC実践研究	6. 最初と最後の頁 204-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 飯島 絵理	4. 巻 68-1
2. 論文標題 教員の男女格差とジェンダー観 公立小中学校本務教員を対象とした調査の結果から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 74-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯島 絵理	4. 巻 729
2. 論文標題 「女性活躍推進」と「男女共同参画の推進」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地方自治職員研修	6. 最初と最後の頁 12-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 飯島 絵理
2. 発表標題 学校教員のジェンダー格差に関する考察 公立小中学校本務教員を対象とした調査の結果をもとに
3. 学会等名 日本教育社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯島 絵理
2. 発表標題 学校教員の男女格差とジェンダー観 公立小中学校本務教員を対象とした調査の結果をもとに
3. 学会等名 日本工学教育協会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>『学校における男女共同参画研修～女性の管理職登用の促進に向けて～ キャリア事例・取組事例 資料集』 https://www.nwec.go.jp/about/publish/copy_of_kyoin-program.html 独立行政法人教職員支援機構「校内研修シリーズ」No117 学校における男女共同参画の推進 https://www.nits.go.jp/materials/intramural/ 『学校における女性の管理職登用の促進に向けて 現状と課題、登用促進のための取組のヒント』 https://www.nwec.jp/about/publish/n61ff1000000p4w.html 初等中等教育における管理職に占める女性の割合の現状 (統計をもとにした資料) https://www.nwec.jp/about/publish/jpk9qj0000002xv1.html 文部科学省委託事業令和2年度「次世代のライフプランニング教育推進事業」 https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/kyoudou/detail/1416258_00002.htm 学校における女性管理職登用の促進に向けて https://www.nwec.jp/about/publish/2019/ecdat600000078yg.html 学校教員のキャリアと生活に関する調査 (概要および報告書) https://www.nwec.jp/research/hqtuvq0000002ko2.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	朴木 佳緒留 (HONOKI Kaoru) (60106010)	神戸大学・人間発達環境学研究科・名誉教授 (14501)	
研究分担者	野依 智子 (NOYORI Tomoko) (40467882)	福岡女子大学・国際文理学部・教授 (27103)	
研究分担者	中野 洋恵 (NAKANO Hiroe) (60155786)	独立行政法人国立女性教育会館・事業課・客員研究員 (82403)	
研究分担者	島 直子 (SHIMA Naoko) (90630856)	独立行政法人国立女性教育会館・研究国際室・研究員 (82403)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関